

問1 日本の地形的特徴である「フォッサマグナ」に関する説明として、最も適切なものはどれか。（2019年 大阪公立入試 類似）

1. 日本アルプスの東側に位置し、本州を東西に二分する巨大な陥没地帯である。
2. 関東地方から九州地方にかけて、西日本を縦断するように伸びる日本最大の断層である。
3. ユーラシアプレートの下に太平洋プレートが沈み込むことで形成された、水深6,000mを超える深い溝である。
4. 東北地方の中央部を南北に走る、奥羽山脈を中心とした火山が連なる地域である。

問2 中央高地に位置する松本市の降水量データを分析すると、日本海側や太平洋側の都市と比較して、月ごとの降水量が全体的に低く抑えられています。このような状況が生じる地形的な理由として、最も適切なものを選びなさい。（2018年 埼玉県公立入試 類似）

1. 周囲を高い山々に囲まれており、海からの湿った空気が遮られるため。
2. 標高が非常に低く、雲が発達する前に風が通り過ぎてしまうため。
3. 広大な平野部が広がっており、上昇気流が発生しにくい地形であるため。
4. 暖流の影響を直接受けることで、空気中の水蒸気が蒸発しやすいため。

問3 日本アルプスと、その周辺の地質的な特徴について説明した次の文章のうち、正しい内容を述べているものを選択してください。（2023年 高知公立入試 類似）

1. 飛騨・木曾・赤石の3山脈の東側には、日本列島を東西に分ける大きな溝状の地形であるフォッサマグナが位置している。
2. 飛騨・木曾・赤石の3山脈は、東北地方から関東地方にかけて南北に連なる日本最大の山脈である。
3. 飛騨山脈は、北海道の中央を南北に走る険しい山脈であり、大規模な畑作が行われる十勝平野の西側に位置している。
4. 木曾山脈と赤石山脈の間には、世界で最も深い海溝の一つである日本海溝が位置している。

問4 日本列島の地質構造に関する説明として、フォッサマグナの特徴を正しく述べたものはどれですか。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 糸魚川・静岡構造線を西端とする、日本列島を地質的に南北（東西）に分断する巨大な凹地である。
2. 関東地方から九州地方までを内帯と外帯に分ける、日本最大級の断層のことである。
3. プレートの沈み込みによって形成された、列島に沿って分布する細長い海溝のことである。
4. 火山活動によって噴出した溶岩が積み重なってできた、標高の高い山脈地帯のことである。

問5 日本海側の気候に属する京都府北部の舞鶴市において、冬の時期に降水量（降雪を含む）が多くなる要因について、季節風と地形の関係から説明したものと最も適切なものを選びなさい。（2016年 愛知公立入試 類似）

1. シベリア高気圧から吹き出す冷たく乾いた北西の季節風が、日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、山脈にぶつかって上昇気流が生じるため。
2. 小笠原高気圧から吹き出す湿った南東の季節風が、山脈を越える際に水分を放出し、ふもとの地域に乾燥した風をもたらすため。
3. 年間を通して安定した偏西風が吹くことで、大陸からの乾燥した空気が常に供給され、上昇気流が発生しやすくなるため。
4. 赤道付近で発生した低気圧が北上し、暖かい海水の影響を受けて冬場でも湿った空気が日本海側に流れ込み続けるため。

問6 日本列島の周辺を流れる海流について、東北・関東沖の太平洋上で寒流と合流し、潮目を形成している「暖流」の名称として正しいものはどれですか。（2019年 沖縄公立入試 類似）

1. 黒潮（日本海流）
2. 親潮（千島海流）
3. 対馬海流
4. リマン海流

問7 「自然災害伝承碑」という地図記号を持つ役割や特徴について説明したものと最も適切なものはどれですか。（2024年 愛知公立入試 類似）

1. 過去に起きた津波や火山災害などの状況や教訓を記した石碑の場所を示し、防災に役立っている。
2. ハザードマップに基づき、将来発生する可能性が高い浸水域を予測して地図上に示したものである。
3. 災害が発生した際に、周辺の住民が一時的に避難するための公園や学校などの場所を示している。
4. 大規模な災害に備えて、食料や飲料水などの備蓄品が保管されている自治体の施設の場所を示している。

問8 ある地域の地形図を確認したところ、山地の斜面に「三角形の頂点から垂直な線が引かれた形状」の記号が密集していました。この地域の景観や環境について説明した文として、最も適切なものを次のなかから選びなさい。（2017年 三重公立入試 類似）

1. 冬でも緑の葉を保つスギやマツなどが多く、木材生産などに利用されることもある景観。
2. 秋に紅葉し、冬に落葉するブナやミズナラなどの広葉樹が中心となっている景観。
3. 傾斜地を利用して、ブドウやナシなどの果実を収穫するための樹木が整然と並んでいる景観。
4. 米を生産するために、水をためる仕組みを整えた平坦な耕作地が広がっている景観。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
日本アルプスの東側に位置し、本州を東西に二分する巨大な陥没地帯である。
- フォッサマグナは、西端を糸魚川・静岡構造線によって区切られた地帯です。よく混同される「中央構造線」は、西日本を北側の嶺家変成帯と南側の三波川変成帯に分ける日本最大級の断層を指します。フォッサマグナは、地形図上では険しい日本アルプスのすぐ東側に広がる地質学的な大きな境界線として認識されます。
- 問2** **答え 1**
周囲を高い山々に囲まれており、海からの湿った空気が遮られるため。
- 中央高地の気候において降水量が少なくなる最大の要因は、周囲を険しい山々に囲まれた「盆地」などの地形にあります。海から吹き込む湿った季節風は、高い山を越える際に雨や雪を降らせるため、山を越えて内陸部に到達する頃には乾燥した空気になります。この仕組みにより、松本市などの内陸部では年間を通じて雨や雪が少なくなります。
- 問3** **答え 1**
飛騨・木曾・赤石の3山脈の東側には、日本列島を東西に分ける大きな溝状の地形であるフォッサマグナが位置している。
- 日本アルプス（飛騨・木曾・赤石山脈）は「日本の屋根」とも呼ばれ、その東側には地質学的な大きな境界線であるフォッサマグナ（大地溝帯）が存在します。飛騨山脈は中部地方（本州中央部）に位置しており、東北地方の奥羽山脈や、北海道の日高山脈とは位置が異なります。また、海溝は海底の地形であるため、山脈の間に位置することはありません。
- 問4** **答え 1**
糸魚川・静岡構造線を西端とする、日本列島を地質的に南北（東西）に分断する巨大な凹地である。
- フォッサマグナは単なる「線」ではなく、古い地層の上に新しい地層が厚く堆積している「地質的な溝（領域）」を指します。この領域の西側の境界線が糸魚川・静岡構造線です。選択肢にある「内帯と外帯に分ける断層」は中央構造線の説明であり、これと混同しないよう注意が必要です。
- 問5** **答え 1**
シベリア高気圧から吹き出す冷たく乾いた北西の季節風が、日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、山脈にぶつかって上昇気流が生じるため。
- 日本の冬は、ユーラシア大陸のシベリア高気圧から冷たく乾燥した北西の季節風が吹き込みます。この風が日本海を渡る際に、対馬海流（暖流）の影響で湿った空気を取り込み、本州中央の山脈にぶつかると、日本海側に雪や雨といった大量の降水をもたらします。
- 問6** **答え 1**
黒潮（日本海流）
- 日本近海には4つの主要な海流があります。太平洋側を南から北上するのが暖流の「黒潮（日本海流）」、北から南下するのが寒流の「親潮（千島海流）」です。この両者が東北・関東沖でぶつかる場所が潮目となります。日本海側を北上する暖流は「対馬海流」、北から南下する寒流は「リマン海流」であり、混同しないよう注意が必要です。
- 問7** **答え 1**
過去に起きた津波や火山災害などの状況や教訓を記した石碑の場所を示し、防災に役立てる。
- 自然災害伝承碑は、先人が経験した大規模な自然災害の被災状況や避難の教訓を記した石碑などの場所を示す地図記号です。地図上でこれらの位置を確認することで、その土地で過去にどのような災害が起きたのかを正しく知り、土地の成り立ちや災害リスクを理解して避難行動に繋げることが期待されています。避難場所や備蓄倉庫などを示す記号とは役割が異なります。
- 問8** **答え 1**
**冬でも緑の葉を保つスギやマツが多く、木材生産などに利用されることもあ
る景観。**
- 問題文にある地図記号は針葉樹林を示すものであり、日本では主にスギ、ヒノキ、マツなどが該当します。これらは常緑樹が多く、建材としての利用価値が高いため、人工林として植えられているケースも多く見られます。広葉樹林や果樹園、田（水田）とは、地図記号の形状によって明確に区別されています。